SDGs新聞	YKK AP株式会社
窓から窓にリサイクル	

SDGsラジオを読んでみよう！

夏は涼しく、冬はあたたかいおうち。

そんなおうちには、誰もが住みたいですよね。

プラスチックのひとつである塩化ビニールを使った「樹脂窓」なら、熱を通しにくく、家を過ごしやすい状態にしてくれます。

また、樹脂窓は家の中を心地よく保つだけではなく、エアコンの使用も減らせることから、環境にもお財布にもやさしいんです。

一方で日本では、使い終わった樹脂窓のリサイクルはまだあまり進んでいません。

そこで窓の会社「YKK AP（ワイケイケイエーピー）」は、使い終わった樹脂窓を回収して再生原料をつくり、

この再生原料から新しい樹脂窓をつくれる未来のために、研究を行っています。

一度役目を終えた窓が、ただ捨てられるだけではなくて、また生まれ変わって人々の暮らしを支えていくなんて、

すごくステキなことですよね。

みなさんの身の回りにも、リサイクルできるものはありませんか？探してみましょう。

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！

画像参照：樹脂窓のイメージ（YKK APのHPより）

夏は涼しく、冬はあたたかい快適な住まいをつくるために役立つのが「樹脂窓」です。樹脂窓は、プラスチックの一種「塩化ビニール」からつくられていて、金属の窓に比べて熱を通しにくいという特長があります。この樹脂窓によって、夏の暑い日でも部屋の中の冷たい空気を外に逃がさず、冬はあたたかい空気をしっかりと保つことができます。同時にエアコンや暖房の使用量を減らすこともでき、電気代の節約にもつながります。さらに、電気・エネルギーを使う量が少なくなるので、環境を守ることにも役立ちます。しかし日本では、この樹脂窓のリサイクルがまだあまり進んでいません。

画像参照：樹脂窓をリサイクルする実験の様子（YKK APのHPより）

これに対して、使い終わった樹脂窓をただ捨てるのではなく、リサイクルするための研究に取り組んでいるのが、窓をつくっている会社「YKK AP」です。今の段階では、樹脂窓をつくる際に出た端材（余った材料）を使って、新たな樹脂窓へと生まれ変わらせるリサイクルを実現しています。さらに今後は、使い終わった樹脂窓を回収し原料として再生し、再び樹脂窓へとリサイクルすることをめざしています。YKK APのこの研究以外にも社会では今、さまざまなモノをリサイクルするための研究や取り組みが行われています。リサイクルは、「持続可能な社会」をつくるための大切なアクションです。これから大きく進歩していくリサイクルの技術に、今、ますます注目が集まっています。

キーワード

塩化ビニール

プラスチックの一種で「塩化ビニル樹脂」とも呼ばれ、暮らしの周りにあるさまざまなものに使われています。

リサイクル

リサイクルとは、使い終わったものをもう一度使って、新しいものに生まれ変わらせることです。

持続可能な社会

環境や資源を大切にし、次の世代が幸せに生きられる社会のことです。「持続可能な社会」を実現するためには、自然を守りながら人と人が支え合うことが大切です。

対象ゴール

みなさんにできること！

自分たちでもどんな「リサイクル」ができるか話し合ってみましょう。

おさらい

- 樹脂窓は、夏は涼しく、冬はあたたかい快適な住まいをつくるために役立つ。
- 樹脂窓によりエアコンや暖房を使う量が減り、環境を守ることにつながる。
- YKK APは樹脂窓のリサイクルの研究をしている。

メモ

SDGsラジオ